

新春法話 「やっぱり人間万事塞翁が馬」

あけましておめでとうございます。

ようこそお地蔵さんのお寺 正光寺の初詣にお参りいただきました。

昨年の中頃は、晴天に恵まれた中で令和時代の最初のお正月を迎え、東京オリンピックの開催など良き年となることに期待に満ちておりました。しかし一月下旬 中国武漢、また東京湾に停泊したクルーズ船乗客の新型コロナウイルス感染の恐怖。当初は対岸の火事のように思っていたことが、瞬く間に日本全土を 世界全土を襲うパンデミック（感染爆発）の事態を引き起こしました。昨年の東京オリンピックの延期などコロナ禍一色の年となるのは誰が想像しえたことでしょうか。昨年の流行語になった「三密」。「感染拡大を防ぐために日常生活の中で密集 密閉 密接を避ける」ことが警鐘された中で令和三年の初詣となりました。

ところで皆さまも中学時代国語の漢文で「人間万事塞翁が馬」という故事成語を習ったことを覚えていませんか。当時私も文法的なことを中心に暗記した言葉でしたが、今日のコロナ禍を憂いたときふと思った言葉でもありました。学生時代はあまり深く意味を知ることはありませんでしたが、改めて言葉の意味を調べてみると、今の時代にも通じる色あせることない教えが込められている言葉だと思いました。

「人間万事塞翁が馬」は、紀元前二世紀 中国が前漢 武帝の時代に書かれた思想書「淮南子」に記載されている物語の故事成語です。「人間」とは「じんかん」と読み 人の世を意味します。大意は「人の世の禍福は変転するものであり、人の予想や思惑通りにはならない」ということです。お釈迦様が説いた仏教の核心「諸行は無常である」（世の中は移ろい変わりやすく、同じ状態でとどまることがない。）と通じるものがあります。

良いことばかりで人生が送れば何も憂えることはないのですが、戦災 自然災害 疫病の流行によつて当たり前の日常生活が当たり前でなくなると、不安や悲壮感が漂いこの世を憂える人々が多くなります。しかし人類の歴史の中で私たちがご先祖様も数多くの禍を経験して乗り越えて今日の豊かな社会を築いてきたことを忘れてはいけないと思います。

良いことも悪いことも出会うのが私たちの人生です。いろいろな出来事に一喜一憂するのは当然ですが、しすぎて生きていく道を見失つては、人生に何の価値も見いだせずに終わってしまいます。「人間万事塞翁が馬」が教えてくれるように、思い通りにならないのが人の世であることを悟り、福に恵まれているときは有頂天にならず謙虚な心を大切に、禍に見舞われたときは落ち込まず、投げやりにならず希望をもって上向きの心を大切にすることを心掛けたいものです。

コロナ禍の中で求められる心は、とにかく忍耐です。日本の古い言葉に「降りやまない雨はない」という言葉があります。遅かれ早かれ新型コロナウイルスも必ず消滅する日がくることでしょう。今は三密を意識して私たちが実践することが、感染拡大を防ぐことを担うのです。

心が折れそうになった時には、先人の言葉を学びましょう。必ず助けてくれる言葉あるはず。今年一年コロナ禍であっても、先ずもって皆様の心身健やかにすごせますことをご祈念申し上げます。新春法話とさせていただきます。

令和三年 辛丑 元旦

合掌

延命山 正光寺 住職 高野隆 晃

Youtube で住職による新春法話の動画が見られます



YouTube